



# 学生の学生による学生のための教養講座 2024年度活動レポート

けいはんな科学コレクションと実行委員会のあゆみ



KEIHANNA  
KAGAKU COLLECTION

# はじめに

## ー 学生の学生による学生のための教養講座の概要 ー

### ● 学生の学生による学生のための教養講座とは

学生の学生による学生のための教養講座は、国際高等研究所の人材育成事業で、若い世代向けの科学イベント「けいはんな科学コレクション」(KKC)とイベントの企画・運営チーム「学生の学生による学生のための教養講座・実行委員会」の2つのプログラムで構成されます。

### ● 実行委員会メンバー

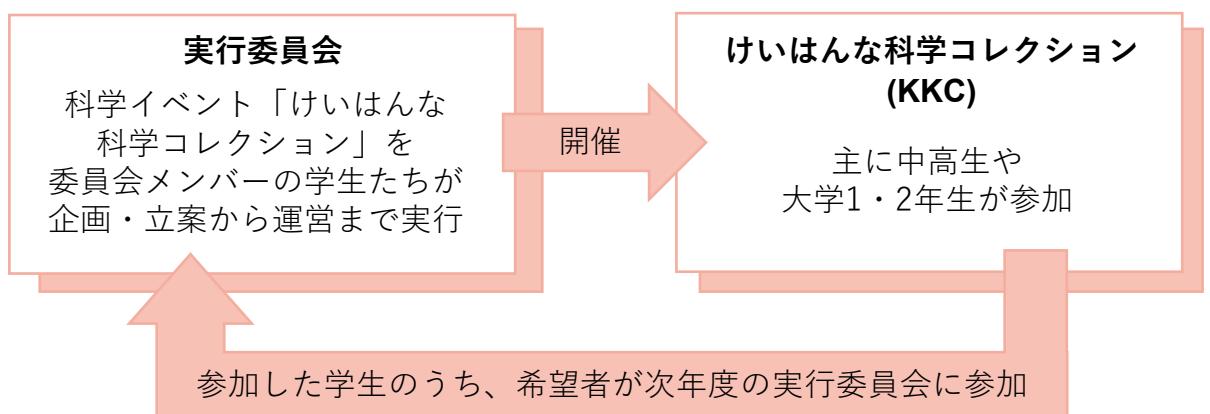
2024年度の実行委員会メンバーは、大阪大学、大阪公立大学、京都大学、京都府立大学、神戸大学、同志社大学、奈良女子大学、奈良県立大学の大学生・大学院生24名で構成しています。

学年は学部1年生から修士、博士課程まで、専攻や学部もさまざまです。

### ● プログラム概要

	実行委員会	けいはんな科学コレクション(KKC)
対象	大学生、大学院生	中高生、大学1・2年生
目的	(右の目的に加えて) ・自ら主体的に考え、実行する機会の提供 ・多様な人材と交流する機会の提供	・社会課題、科学技術に関心を持つ機会の提供 ・自分の将来の選択肢を考える機会の提供
実施時期	半年間 (2024年度は、2024年9月～2025年3月) ・実行委員会ミーティング14回 ・研究者インタビュー5回 ・けいはんな科学コレクション開催	年1回 (2024年度は2025年3月16日)

### ● 実行委員会と「けいはんな科学コレクション」との関係（将来構想）



国際高等研究所



実行委員会メンバーの集合写真



KKCの様子

# 活動スケジュール

私たちが約1年間、  
どんなことをしてきたのかを紹介します！



既存メンバーも  
参加！

p. 13-15の自己紹介ページで  
参加を決めた理由等  
紹介しています

7-8  
月



キックオフミーティング

・R&D フェア出展



第2回ミーティング

- ・自己紹介
- ・研究者と交流
- ・ガイダンス
- ・施設案内
- ・今後の流れ



第3回ミーティング



けいはんなR&Dフェア2024

- ・昆虫食ワークショップ
- ・防災ワークショップ



R&D フェア打ち上げ

詳しくはp. 3

10  
月



第4回ミーティング

- ・R&D フェア振り返り
- ・KKCに向けて
- ・国際ワークショップ見学



第5回ミーティング

- ・KKC企画の絞り込み



第6, 7回ミーティング

- ・企画、広報、運営

11/30には国際シンポジウムの  
聴講と手伝いをしました！

9  
月



研究者インタビュー

- 12/19 ATR 境先生  
ATR 松室先生  
12/23 RITE 橋本先生、Dyah先生  
同女大 斎藤先生  
12/25 奈良先端大 出村先生



研究者の方からお話を聞き、  
やりたいこと・伝えたいことが  
明確になりました

1  
月



けいはんな科学コレクション (KKC)

1/12 1/26

第8, 9回ミーティング  
企画、広報が  
より具体化しました

4/3, 5/12, 6/29

- ・振り返り
- ・レポート作成

奈良市内各所で掲示した  
デジタルサイネージ



KKC2025のロゴ



各所に配布  
したチラシ

課題や困難も多かったですが  
やりきることができました

11  
月



詳しくはp. 4

- 2/14 2/20 2/28  
第10-12回ミーティング  
展示物作成、講演依頼など  
本番までの内容の詳細を  
詰めていきました

毎週準備をしていました！  
大変でしたが楽しかったです

2  
月

3  
月

4-6  
月



詳しくはp. 5-12



KKC 打上げ



楽しい思い出が  
たくさんできました！

# けいはんなR&Dフェア

2024年10月5日にけいはんなプラザ（精華町）で行われた  
けいはんなR&Dフェアに（公財）国際高等研究所「学生の学生による  
学生のための教養講座」として出展しました。



## 準備

9月中に複数回ミーティングを行い、  
「昆虫食」と「防災ワークショップ」の展示を行うことになりました！



展示やワークショップの物品作成は  
イベント当日までギリギリでしたが、  
何とか間に合わせることができました。

## 昆虫食

### ねらい：

昆虫食を通じて、科学だけでなく、社会課題や多様な文化・伝統にも関心を向けてもらう。

### 作成物：

昆虫食の紙芝居、昆虫食の試食と共有ポスター

### 当日の様子：

準備していた昆虫食がなくなってしまうほどの大盛況でした！

「昆虫食って意外とおいしい」、「未来の食べ物はどうなるんだろう」などの声を聞くことができました。



## 防災ワークショップ

### ねらい：

けいはんな地区で行われている研究について、「防災」という観点から伝えることで日常生活のなかのカガクに興味を持ってもらう。

### 作成物：

ポスター、工作物

### 当日の様子：

けいはんな地区で行われている地震予測についての紹介や、シミュレーションゲームを通じて被災時の在り方について、わかりやすく伝えることができました！特にワークショップで行った紙コップ作りは好評でした。



# KKC前日・当日の流れ

前日 - 会場設営・リハーサル



12:00 — KKC開始！



12:00 - 推しで進路を考える！



随時 - まちなかカガク



17:00 — KKC終了！



12:20 - AIにかたちはあるのか



15:00 - 女性研究者対談



13:00 - 放射線ワークショップ



13:00 - Switchインタビュー  
・研究者カフェ



# 推して進路を考える！



## 企画班

津田（大公大院修士1年）、服部（大公大3年）、山中（阪大4年）、元田（奈良女大4年）、山本（奈良女大院博士1年）

## 企画内容

「進路シミュレーター」は、自分の好きなものや興味のあることをベースに、参加者が前向きに将来の進路を考えるきっかけを提供することを目的とした交流企画です。

「進路シート」というプロフィール帳に似たデザインのシートに委員会メンバーや参加者それぞれの「推し」を記入し、お互いに見せ合いながら、興味のある分野や進路選択についてカジュアルに話しました。

## ねらい

私たちが中高生の頃は、進路を考える上での大学生くらいの年齢の身近なロールモデルはあまり多いとは言えず、将来の自分の姿を想像することは簡単ではありませんでした。そこで、身近な「推し」を題材に、様々な専攻・背景を持つ大学生・大学院生と進路を話し合える機会があればいいのではないかと考え、本企画を考案しました。

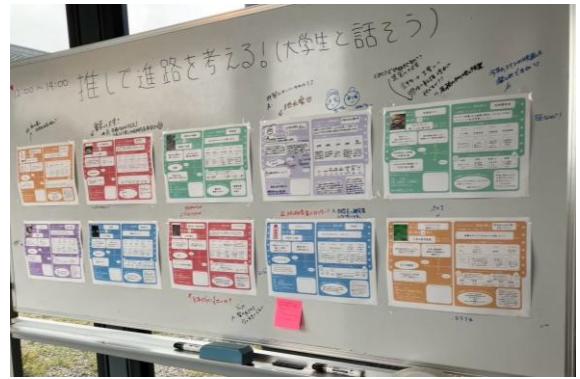
## 委員会メンバーの「推し」と専攻

委員会メンバーの「推し」と専攻分野は、密接に結びついているものもあれば、一見すると無関係に思えるものもあり、バリエーション豊か。メンバーの「推し」と専攻分野は、以下のような繋がりがあり、とても面白かったです。

- ・知的財産－法学
- ・ボランティア行動経済学
- ・名探偵コナン－工学
- ・ソフトウェア工学－情報工学



委員会メンバーの専攻分野表

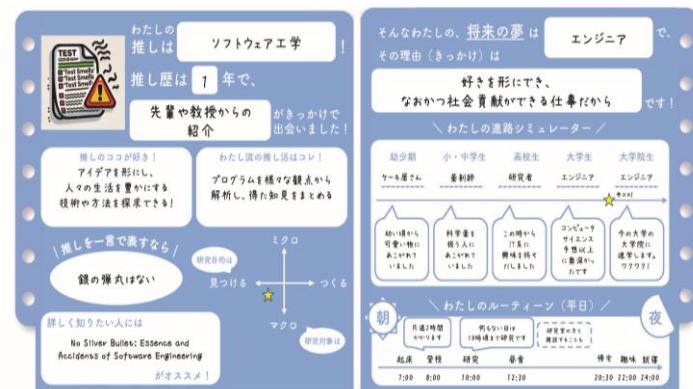


展示の様子

## 進路シミュレーターができるまで

「進路シミュレーター」は、実は異なる2つの企画から生まれました。1つは委員会メンバーそれぞれが辿ってきた進路を紹介する企画。もう1つは「推し」を起点に参加者自身の進路を考えてもらう企画です。

同じ「進路」というテーマでもアプローチは全く異なり、この形に辿り着くまでには様々な試行錯誤がありました。初期の案には人生ゲーム風のすごろくや、Webサイトを使った進路のシミュレーションなどがありましたが、「参加者と対話しながら進路について一緒に考えるきっかけにしたい」という企画メンバーの思いから、最終的には「進路シート」を使ったこのスタイルになりました。



進路シート

# AIにかたちはあるのか



## 企画班

浦田（奈良女大1年）、山本（奈良女大2年）、島末（奈良女大3年）  
豊嶋（大公大4年）、田邊（京府大3年）

## 企画内容

AIに形があるとすればどんな形かを想像し、LaQで作るワークショップを行いました。実行委員会メンバーからAIについての説明を行い、その後各自の思うAIを形にしてもらいました。作成中は参加者がAIに対するイメージを掘り起こせるようメンバーがサポートしました。作品完成後には「何を考えて作ったのか」を参加者同士でシェアする時間をしてAIについての理解を深めました。

## ねらい

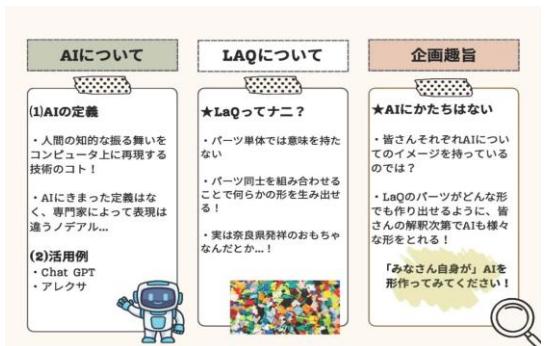
AIという形を持たない物に思いをはせるのは難しいですが、AIは私達の生活に間違なく大きな影響を及ぼしています。「よく知らないがなんとなくわかった気になっている」AIの姿をLaQを通じて考えることで、AIとの関わり方や価値、意義についてより深く考えてもらうことを目指しました。

## ここが大変でした…！

一番大変だと感じたことは、“AI”というテーマの難しさです。企画を始めた頃は、私たち自身も「AIとは？」という状態でした。そこから、AIの定義や歴史、課題などを一つひとつ調べ直し、どの情報をどんな言葉で伝えるかをメンバーで話し合いながら決めていきました。特に意識したのは、より深い内容を、誰に対してもわかりやすく伝えることです。そのため、司会原稿や配布資料では、言葉選びや構成を工夫しました。司会原稿については、国際高等研究所主席研究員の鈴木晶子先生にも確認していただき、いただいたアドバイスをもとに推敲を重ねました。



会場の様子



企画説明資料

## 作品紹介！

当日は、子供から大人まで、さまざまな年代の方に参加していただき、個性のある作品が生み出されました。中には、委員会メンバーの説明を聞いて初めて知ったことを作品に取り入れてくれた参加者も。AIに対する見方が参加者によって違っており、いろいろな「AIのかたち」が生まれていました。企画したメンバーにとっても、価値のある時間になりました。



参加者が作成した作品



作品は会場内に展示

# SWITCHインタビュー



## 企画班

津田（大公大院修士1年）、東（神大院修士1年）、岡本（阪大1年）、岩尾（京大院修士1年）、寺西（大公大1年）、広瀬（奈良県大4年）

## 企画内容

2人の研究者による対談を通じて、中高生に日本の最先端の研究や研究者のキャリアについて知ってもらう企画です。当日は、国際電気通信基礎技術研究所の境くりま先生と、松室堯之（まつむろたかゆき）先生をお呼びしました。境先生は人間らしいアンドロイドを、松室先生は宇宙太陽発電所の実現に向けたワイヤレス電力伝送技術を研究されています。異なる分野の研究者が同じテーマにどう答えるのか、それぞれの視点を深堀りしました。

## ねらい

けいはんな学研都市にゆかりがある人にも「どんな研究者が、どんな研究をしているのか」はあまり知られていません。そこで、研究者から直接話を聞く機会を設け、参加者が科学をより身近に感じ、興味を持つきっかけを作りたいと考えました。

また、異分野が交わることで生まれる新たな視点を共有することで、参加者にとって多様なキャリアパスを提示し、自身の将来を考える機会を提供することを目的としました。

## 異分野の視点で見る、未来のかたち

境先生からは、アンドロイドに自然な笑顔を表現させる技術の難しさや、アンドロイドが生活に普及し、人間と共生する社会の未来像についてお話を伺いました。松室先生からは、マイクロ波についての基本的なご説明から始まり、マイクロ波をより大規模に活用することによる、ドローンの遠隔充電や宇宙から地球への送電技術の可能性についてご紹介いただきました。

また、アンドロイドを脅威ではなく共生可能な「友達」のような存在として捉えられる社会が理想的であるという、未来についての示唆に富んだお話もありました。

**SWITCH INTERVIEW とは？**

異なる分野の研究テーマを持つ2人の研究者が、同じ質問にどう答えるのか？  
それぞれの視点の違いを深堀りする企画です。

- ① どんな研究をしているの？
- ② 異分野の研究者に、同じ質問してみた！
- ③ お互いに聞いてみたいことは？
- ④ 気になること、聞いてみよう！

質問② アイデアはどうやって生まれる？

**境 くりま 研究員**  
考えて  
捻り出すときもあるが、入浴中か就寝前が一番アイデアが出る。もしくは休日の散歩中。

**松室 堯之 研究員**  
課題と向き合うこと

当日の投影用スライド

## SWITCHでつながる対話

本企画では、様々な工夫を凝らしました。まず、お二人に交互に質問へご回答いただいたり、互いに質問し合っていただいたりする“SWITCH”的仕組みです。先生方は互いの研究に強い関心を持ちながら楽しそうに対談されており、互いの研究に敬意をもって接する「研究者としての姿勢」を垣間見ることができました。

また、参加者にはQRコードを読み取ってもらい、リアルタイムで質問を募集しました。これにより、特に高校生の皆さんからたくさん質問が寄せられ、魅力的な企画になったと感じています。

けいはんな科学コレクション2025企画 13:00-14:00  
異分野研究者対談 SWITCH INTERVIEW  
参加：誰でも 会場：国際高等研究所 コミュニティホール  
異なる分野で活躍する研究者2人に聞く!  
科学がつくる未来のかたち

境 くりま 氏  
(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)  
深層インターフラクション統合研究所  
石黒浩輔副研究員  
「アンドロイドと人間の共生社会の実現」

松室 堯之 氏  
(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)  
波動工学研究所 研究員  
「マイクロ波電力伝送技術による  
宇宙太陽発電所の実現」

けいはんなで、どんな研究をしているの？「研究の面白さって？」  
「研究のチカラで未来は、社会はどう変わる？」  
異なる分野の研究テーマを絞つおふたりが、同じ質問にどう答えるのか？  
それぞれの視点の違いを深掘りし、新たな発見を探ります。

広報用チラシ

# 研究者カフェ（研究者交流会）



## 企画班

三本（京大院修士2年）、東（神大院修士1年）、  
城寶（奈良女大院博士1年）、岡本（阪大1年）

## 企画内容

研究者カフェ（研究者交流会）は、現在活躍されている研究者の方々と参加者が直接交流できる企画です。

当日は、国際電気通信基礎技術研究所の境くりま氏、松室堯之氏、三方瑠祐氏、奈良国立大学機構の杉村逸郎氏、国立国会図書館関西館の中村魁氏、理化学研究所の磯村史嘉氏をお招きし、研究者を囲んで研究の未来や現場のリアルなど、様々な話題について気軽に語り合いました。また、中高生の研究発表の時間も設けました。

## ねらい

本企画は、研究者と参加者が気軽に交流できる場をつくりたいという思いから生まれました。科学や進路に関する思いがけないきっかけを作りたい、また、直前の講演企画で感じた興味をさらに深めてもらいたい、という2つの願いを込めて企画しました。

## 研究者に聞く！研究と進路のヒント

当日は、けいはんな地域の中高生約30名が参加し、4つのグループに分かれて、15分間のディスカッションを2回実施しました。様々なジャンルの最先端で活躍されている研究者の方々に、研究についてお聞きしたり、大学や進路について相談したり、参加者自身の研究を発表して意見をもらうなど、幅広い話題で活発な議論が行われました。

最初は緊張していた参加者も次第に打ち解け、最後には時間が足りないほど盛り上がる様子も見られました。普段接する機会の少ない研究者と直接話して、多くの刺激が得られる貴重な時間となりました。



グループごとにディスカッション

## 研究者 × 中高生 未来を広げる時間

本企画は4名の担当者が一から考案したものです。中高生が気軽に参加できる工夫や進行方法について試行錯誤を重ねた結果、当日は予想を上回る盛り上がりを見せ、実り多い時間となりました。また、高校生たちが自分たちの研究を堂々と発表している姿が印象的でした。研究者の方からフィードバックを受けることができ、有意義な時間になったと思います。本企画が参加者の皆様の視野を広げるきっかけとなれば幸いです。



先生方から直接アドバイスも



進行は企画メンバー

# 放射線ワークショップ



## 企画班

大谷（京府大4年）、三本（京大院修士2年）、  
山本（奈良女大院博士1年）

## 企画内容

「和室でカガク 放射線を見てみよう！」は、身の回りにある放射線について理解することを目指す50分間の体験型ワークショップです。

霧箱という装置を使って放射線の通った跡を観察したり、リアルタイム線量計を使って放射線源（御影石、湯の花、肥料など）による放射線量の違いや、身の回りの放射線測定を行ったりしました。

## ねらい

放射線は、がんの治療や非破壊検査、新しい物理現象の発見などあらゆる分野で社会を豊かにしています。参加者に放射線計測実験を通じて放射線に対する関心をもち、そして科学の中でも放射線を進路選択のキーワードとして取り入れてもらうことをねらいとしました。

## 大変だったこんなこと！

放射線ワークショップの準備はお金との闘いでした。意外に思われるかもしれません、ドライアイスって結構高いんです。初めは当日の予算だけだと過小評価していたのですが、企画を成功させるためには、予備実験やドライアイスの調達経路など当日のシミュレーションを重ねることがとても重要でした。何回も予備実験しているとそれなりの金額になってしまいました（笑）。

当日は、実験の準備状況と収容人数、時間のバランスを取りながら運営するために、臨機応変さが求められました。想定以上の盛況で、急遽回数を増やすことに！参加者の方々のご理解もあって何とか企画を遂行することができました。



企画を担当したメンバー



当日準備の様子

## 「見えた！」が聞こえた！

これは当日見えた飛跡（放射線の通り道）の写真です。見るのに少しコツがいるようで参加者の皆さんも苦戦していました。企画班としても、うまく見えるかどうかの不安はありました。しかし、見えたという声が聞こえたときにはほっとしたのを覚えています。



ワークショップで使用した霧箱



実際に観察した飛跡

# 女性研究者対談



## 企画班

西川（阪大院修士2年）、岩尾（京大院修士1年）  
元田（奈良女大4年）、杉田（阪大4年）

## 企画内容

国際高等研究所主席研究員の鈴木晶子氏と、奈良女子大学准教授の青木美紗氏にご登壇いただき、「好きを貫くには？」をテーマにご対談いただきました。「どうして研究の道に進んだのか」、「研究者としてのワークライフバランス」について、女性研究者の視点を交えてお話しいただきました。

## ねらい

本企画のねらいは、参加者の方々に「好きを貫く」ためにはどうしたら良いのかという点について、2人の研究者のリアルな体験談を通して、どのようにキャリアを形成してきたのかを知ってもらうことでした。特に、女性研究者としての視点から、仕事と家庭の両立や、社会の期待との向き合い方、さらには「好きを貫く」ための努力と工夫についてリアルな話を聞くことで、参加者が自分の進路選択や将来設計を考え、幅を広げる一助となることを目指しました。

## 研究者と語る研究のこと、未来のこと

当日は多くの方々にご参加いただきました。トークテーマに対して、先生方はそれぞれの体験を交えたお話をしてくださいり、参加者もメモを取りながら真剣に耳を傾けている姿が印象的でした。「研究の道に進んだ理由」や「人生設計における苦悩の時期」など、さまざまな疑問に対して、具体的なエピソードを交えながらお答えいただきました。

対談の最後には少人数の座談会を設け、参加者が先生方に直接質問し、意見交換をする時間を持ちました。この形式にすることで、より深い対話が生まれ、参加者と先生方がさらに密接に関わることができ、個別の悩みや疑問にも丁寧に答えていただくことができました。



対談の様子



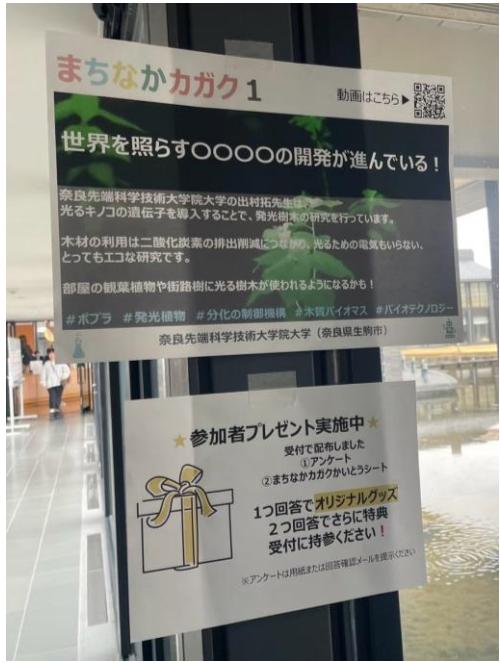
司会進行をする企画メンバー

## リアルに触れて深まる対話、広がる視野

分野の異なる2人の研究者のご対談から、企画を担当した実行委員としても学びの多い部分が多々ありました。実際に先生方の言葉を直接聞かないと分からぬことが多いたくさんあり、「リアルな声」の重要性を改めて実感しました。参加者からの質問に対して、先生方が具体的な方法や心構えを語られる場面も多くあり、企画者として非常に貴重な学びの時間となったと感じています。

普段、なかなか関わることのできない研究者の方々の考え方につれることができ、自分のこれから的人生に活かせる視座を得ることができたと同時に、今後について考える良いきっかけにもなりました。事前に用意していた質問に加えて、参加者から寄せられた質問も非常に鋭く、それぞれの立場からの視点が反映されたものが多くありました。これが対談をより有意義なものにし、参加者と共に深い議論を進めることができた要因だと考えています。

# まちなかカガク



## 企画班

津田（大公大院修士1年）、大谷（京府大4年）、西川（阪大院修士2年）、三本（京大院修士2年）

## 企画内容

まちの中にある様々な困りごと。それらには、科学の力で解決できているものや、今後解決できそうなものもあります。「まちなかカガク」は、会場内に設置された11枚の展示パネルを探し出し、問題を解きながら、科学の力がまちのどこで活躍しているのかを学べる、クイズラリー形式の企画です。多くの来場者にご参加いただき、正解された方には、今年度新しく作成したKKCオリジナルのクリアファイルをプレゼントしました。

## ねらい

多くの中高生にとって科学や研究が難しく感じられる背景には、日常生活の中で科学がどのように活用されているのかが分かりにくいという現状があると考えました。そこで、けいはんなでの研究がまちの中でどんなカタチになっているか知るきっかけとして、この企画を実施しました。また、会場の様々な場所にパネルを設置することで、会場全体を巡りながら、他の企画にも触れていただけるようにしました。

## クイズだけじゃない！ 楽しませ方の工夫

ロボティクスやフードテック、ライフサイエンス、情報通信、環境・エネルギーなど、けいはんなで行われている多様な研究テーマを紹介しました。展示パネルには、各テーマの研究者によるインタビュー動画にアクセスできるQRコードを掲載し、より詳しく知りたい方が気軽に視聴できるよう工夫しました。

また、ボード作成ツール「ふきだしきん」を利用し、来場者が考える「まちの困りごと」と、その解決アイデアを共有できる場を設けました。



受付で企画説明をする様子



展示パネルの例

## 「やってみたい！」を引き出す問題作成

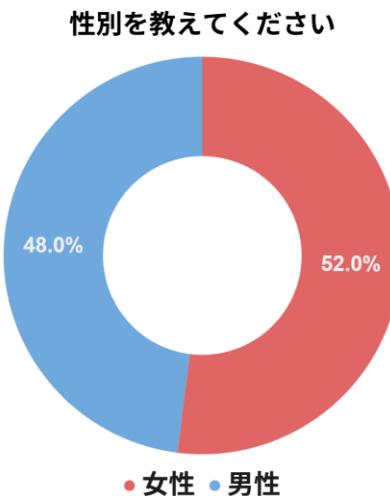
配布シート（裏）

ただキーワードを集めただけではなく、複数のキーワードを組み合わせて最終的に一つの答えに辿り着く形式にすることで、すべての展示パネルを巡り、最後まで楽しみながら問題を解いてもらえるよう工夫しました。

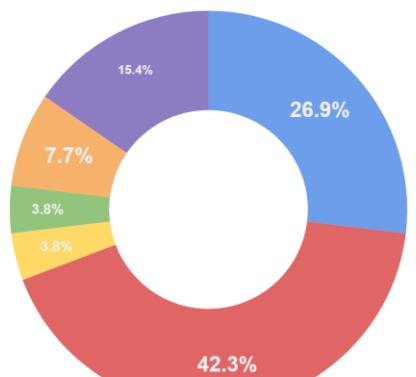
受付で配布したシートは、表面に企画説明と例題を載せた「せつめいしょ」、裏面に問題と解答欄を設けた「もんだい・かいとうシート」として構成しました。来場者の方々に「やってみたい！」と思ってもらえるよう、デザインや配色などの細部までこだわりの詰まったものができました。他の委員会メンバーからも好評で、とても嬉しかったです。

# 来場者アンケート

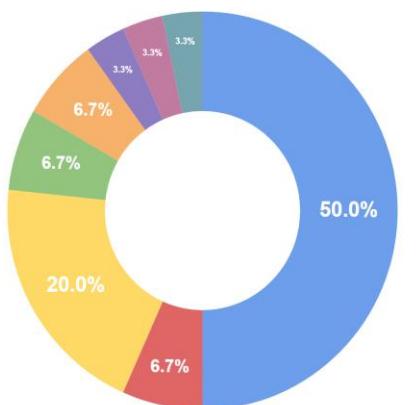
## 集計結果



お住まいの地域を教えてください



イベントを知ったきっかけ（複数選択可）

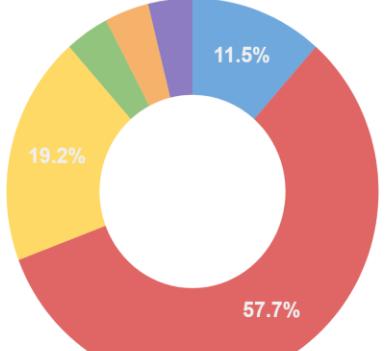


## 参加者の声

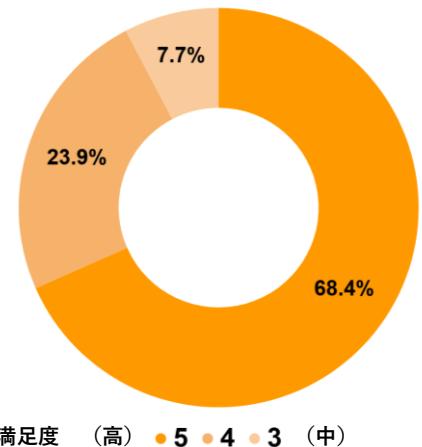
学生の方が一生懸命企画運営され、中高生にも興味関心を持つように工夫されているところがよかったです。

学びが多く、自分のSSHの活動に活かせそうなことがたくさんありました。ありがとうございました。  
素敵な取組なので、もっと沢山の生徒や学生に知ってもらえるといいと思いました。

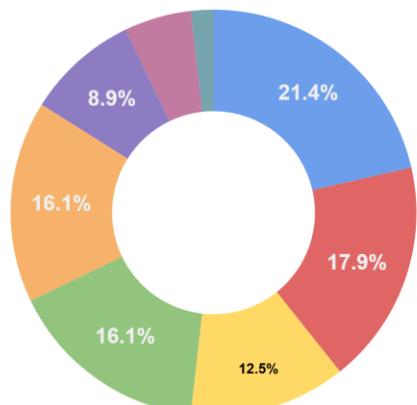
所属を教えてください



イベントの満足度を教えてください（1～5）



どの企画が面白かったですか？（複数選択可）



- 研究者カフェ
- SWITCHインタビュー
- AIにかたちはあるのか？
- 放射線を見てみよう
- 女性研究者対談
- まちなかカガク
- 推しで進路を考える！
- 実行委員会の歩み

大学生や教授との距離が近くて普段は聞けないようなことを聞くことができ、質問に対してもたくさん答えてくれました。

大学生や大学院生の方とはあまり接する機会がないため、貴重な機会になりました。

# メンバー自己紹介 2期生

はじめに

スケジュール

フレア&D

KKC  
前日 当日

KKC企画  
レポート

来場者  
アンケート

メンバー  
自己紹介

寄稿文

13

## プロフィール



氏名

寺西 瑠美

所属

大阪公立大学  
現代システム科学域

学年

1年

## 自己紹介

### 自己紹介

大学生です。いつもは大学に行ったり家でゴロゴロしたりしています。

### 参加した動機

何か理由がないと奈良のほうに行くことがないので、せっかくなので参加してみよう、ということで応募してみたのがきっかけです。

## 活動の感想

### 活動の感想

今年のイベントもたくさん的人に来ていただいて、大成功でよかったです！次回も盛り上がってほしいです。

## プロフィール



氏名

浦田 和希

所属

奈良女子大学  
文学部

学年

1年



### 自己紹介

気になったら1回やってみることを一つの目標にしている学生です。自分の「好き」「苦手」「続けられる」「よくわかんない」を探し中。

### 参加した動機

イベントの企画運営とかやったことないけど、気になるからとりあえずやってみよう、自分の大学じゃ出会えない色んな類の人間もいるだろうしーと思いました。

## プロフィール



氏名

山本 舞

所属

奈良女子大学  
文学部

学年

2年

## 自己紹介

大学では社会学を専攻しており、都市社会学や観光研究に関心を抱いています。大学生活は折り返し地点を迎えたがサークル活動にも勤しむ日々です。奈良の魅力をもっと多くの方に知つてもらいたいです。

### 参加した動機

多様な専攻で学ぶ様々なバックグラウンドを持ったメンバーと企画を作りあげ実行するという機会に魅力を感じたからです。

## 活動の感想

### 活動の感想

上回生しかいない中で1回生の自分が1つの企画のリーダー役をするという体験は大学ではまずできない稀有なものだったと思います。色んな人間が集まると絆も転轍も生まれますが、その中でどういう風に自分が振る舞うのが良いのかを考えるのに良い場でした。

## 活動の感想

私は「AIに形はあるのか」という企画づくりのチームに所属していました。企画を通じて参加者の方に何を伝えたいのかをメンバー間で考えたり、当日の運営にあたっての準備を重ねたりと、責任を持って企画づくりをするためには様々なプロセスを踏むことが大切だと実感しました。また、バックグラウンドが多様なメンバーが集うことにより新たな発見が生まれたり、得意を活かした活動が尊重されたりすることもこの活動の魅力だと感じました。

## プロフィール



氏名 島末 結加  
所属 奈良女子大学 生活環境学部  
学年 3年

## 自己紹介

文系ですが、周りのメンバーに教えるでもらなながら活動しています！

## 参加した動機

授業や就活ではイベントの企画までをすることが多かったですが、実際に運営まではしたことがなかったので、運営までやってみたいと思い応募しました！

## プロフィール



氏名 元田 純弓  
所属 奈良女子大学 生活環境学部  
学年 4年

## 自己紹介

大学では臨床心理学を学んでいます。来年度は大学院に進学し、より専門性を深めたいと考えています！

## 参加した動機

様々なバックグラウンドを持つ学生と一緒にプロジェクトをやってみたいと感じたから。

## 活動の感想

最初は文系なのに科学イベントを企画できるのか不安でした。しかし、自分で勉強したり、周りのメンバーや専門家の方に相談しながら進められることで、自身の勉強にもなりましたし、イベントも成功に終わりました。勇気を出して飛び込んでよかったです！

## 活動の感想

普段の学生生活では出会えないような個性的な実行委員会メンバーに出会い、一緒に物事をつくりあげる経験は、大学生活をより充実させてくれたと感じています。研究者の先生方とお話しできたのは非常に良い経験となりました。関係者の方々や実行委員会のみなさん、半年間沢山助けて頂きました。

## プロフィール



氏名 服部 奈里美  
所属 大阪公立大学 理学部  
学年 3年

## 自己紹介

普段は大阪公立大学で化学を学んでいます。進路選択に興味があり、関連イベントに参加しています。部活動では合気道をしています。最近黒帯を取りました！

## 参加した動機

色々なバックグラウンドを持った人たちと一緒にイベントを作り上げてみたいと思ったから。高校の部活の先輩が昨年参加していたから。

## プロフィール



氏名 杉田 侃音  
所属 大阪大学 工学部  
学年 4年

## 自己紹介

大分県出身で、大学進学を機に関西にきました。4年間住んでいますが関西弁より大分弁の方が自然に出てきて周りの人を困惑させています。

## 参加した動機

企画運営に興味があり、過去の経験が活かせるということや、他大学の学生さんと力を合わせてプロジェクトに取り組むことできることが魅力的だったからです。

## 活動の感想

方針がなかなか決まらなかったりしたのは大変苦労しましたが、みんなで相談しながらなんとか形には持って行けたと思います。頼れる上回生やエネルギーッシュな下回生が多くおられ、刺激になりました。また、社会経験豊富な顧問的な存在の松井さんからのコメントはいつも参考になりました。トライアンドエラーの精神が身に付きました！

## 活動の感想

とても楽しかったです。特に活動時期前半はあまり企画に携われずご迷惑をおかけしましたが、心優しいメンバーに受け入れてもらい、KKC当日の運営等も協力して行えてとてもよかったです。KKCに参加した中高生の研究などレベルが非常に高く圧倒されました。

## プロフィール



氏名 津田 あすか  
所属 大阪公立大学大学院  
理学研究科  
学年 修士1年

## 自己紹介

地震による変形で形成されたシードタキライトという岩石の形成条件について研究しています。  
趣味は博物館巡りです。

## 参加した動機

異分野を学ぶ学生と交流できることとイベントをゼロから形にできることに強く惹かれて参加しました。

## プロフィール



氏名 城寶 愛結  
所属 奈良女子大学大学院  
人間文化総合科学研究科  
学年 博士1年

## 自己紹介

大学では、化粧品や医薬品に使われる“スクアレン”という成分を、サメに頼らず酵母から効率よく回収する技術の開発に取り組んでいます。

## 参加した動機

研究者の方々や他大学の学生と積極的に交流したいと思い、参加しました。

## 活動の感想

いつか実現したいと思い描いていた企画を、形にできたことがとても嬉しかったです。KKC当日には多くの中高生にご参加いただき、研究者の方々との架け橋となって、科学や研究の魅力を直接広めるきっかけづくりができたと実感しています。また、普段は異なる分野を研究している委員会メンバーとの交流も、刺激的で学びの多い経験でした。

## 活動の感想

この活動を通じて、これまで交流のなかつた方々と知り合うことができました。また、実行委員のメンバーとともに企画を一から考え、話し合いながら形にしていくという貴重な経験ができ、R&Dフェア・KKCを成功させることができて本当によかったです。さらに、研究者の方々から伺ったキャリアに関するお話を大変勉強になり、私も将来、先生方のように活躍できるよう努力していきたいと思います。

## プロフィール



氏名 西川 遥波  
所属 大阪大学大学院  
理学研究科  
学年 修士2年

## 自己紹介

大学院で、ショウジョウバエというハエを用いて細胞や発生に関する研究をしていました!科学(特に生物学)が大好きで、休日は科学館や博物館に出かけています。

## 参加した動機

科学技術と社会を繋ぐことに興味があり、参加しました。科学が苦手な人にも、そうでない人にもアプローチしていきたいという思いがありました。

## 活動の感想

自分たちで企画から行ったイベントに、たくさんの方が来場していただけたことは、とても貴重な経験でした!活動に対し、大変だと感じる瞬間もありましたが、振り返ると大変有意義な時間でした。関わってくださったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

## メンバー自己紹介 1期生



田邊 瑞歩  
京都府立大学  
3年



大谷 水都  
京都府立大学  
4年



山中 綾華  
大阪大学  
4年



東 和佳奈  
神戸大学大学院  
修士1年



三本 勇貴  
京都大学大学院  
修士2年



山本 桃花  
奈良女子大学大学院  
博士1年

# 寄稿文

けいはんな科学コレクションにご参加いただいた研究者の方々より、実行委員会活動について寄稿文を頂戴しました。



鈴木 晶子 先生  
(国際高等研究所)

## 一「有難う」が世界を変える

「好きこそ物の上手なれ」—この言葉は、人間の創造的な活動の根源には“好き”があることを教えてくれます。他人の評価よりも、自分の物差しや内なる声に耳を傾けましょう。夢中になれるこのなかに、あなたしさと未来のヒントが隠れています。

もちろん人生にはさまざまな出来事があり、困難も避けられません。けれども、大変さのなかにこそ、思いがけないチャンスが宿ることがあります。無駄な経験など何一つないので。

まずは、あなた自身を深く知ることから始めてください。誰よりもあなたを理解し、励ませるのはあなた自身なのです。あなたが今ここに生きていること、それ自体が奇跡。周りの人や自然、動物、そしてスマホにも、そっと「有難う」と声をかけてみましょう。きっとどこからか「あなたがいてくれて有難う」という声が返ってくるはず。感謝の言葉が、世界をやさしく変えていきます。

## 一 挑戦を楽しむ

今回のイベント、本当にお疲れ様でした!

運営に携わった学生の皆さん。企画から運営まで、大変なことも多くあったと思いますが、皆さん的人柄が良く伝わる素晴らしいイベントだったと思います。イベントを通じて培った企画力、問題解決能力、そしてチームワークは、これから的人生でかけがえのない財産となると思います。この経験を胸に、失敗を恐れず自信を持って、さらに大きなことへ挑戦していってください!

また、参加してくれた高校生の皆さん。今回の経験が皆さんの将来を考える上で、大きなヒントになってくれれば嬉しいです。未来は誰にも決まっていません。だからこそ、迷いながらも挑戦を楽しむことが大切です。今回感じたこと、学んだことを胸に、自分の「やってみたい」を信じて、これからも新しい世界に挑んでください! 皆さんのこれからのお活躍を心から応援しています!



杉村 逸郎 先生  
(奈良国立大学機構)



境 くりま 先生  
(国際電気通信  
基礎技術研究所)

## 一 失敗は存在しない

僕がこれまで研究に携わってきて、最も重要だと感じた教えは、「失敗は存在しない」ということです。

近年、子どもたちに対して「\*\*\*してはいけない」とか、「失敗させないように」といった大人の意識が強く働いていると感じています。しかし、そのような教えのもとでは、自分で考えて行動する力——つまり「探究する力」が育ちにくくなってしまいます。

大人になれば、会社のため、お金のためなど、さまざまなしがらみの中で、自由に探究することが難しくなってしまうものです。だからこそ、今この若い時期にこそ、自分が「面白い」と思えることに素直に向き合い、恐れずに探究してほしいのです。少なくとも、僕はそんな若者を全力で応援します。



松室 基之 先生  
(国際電気通信  
基礎技術研究所)

## 一 原点を見つめなおす機会

このたびは素敵なイベントにお招きいただき、ありがとうございました。学生の皆さんのが主体となって企画・運営された場に登壇させていただけたこと、とても光栄に思いますし、私も4月から小学生になった娘も楽しい時間を過ごすことができました。

特に対談では、自分の研究の原点である宇宙太陽発電への想いを改めて見つめ直す良い機会となりました。また、以前から興味を持っていたアンドロイド研究者の方と直接お話しできることも、個人的にとても刺激的な時間でした。

このように、今回のイベントは私にとって貴重な経験となりましたが、実行委員の皆さんにとっても何かの糧となれば幸いです。皆さんの今後のご活躍を、心から楽しみしております。



青木 美紗 先生  
(奈良女子大学)

## 一 「なぜ」を挑戦し続ける

けいはんな科学コレクションのご準備・運営等々ありがとうございました。

「なぜ」を追及し続ける壁や楽しさを学んでいただければ嬉しいです。学問領域が異なっていても、学問の根幹は、自然現象や社会現象に対して「どう考えるのか」という哲学だと思いますので、大学生という貴重な機会にいろんなチャンスを拾って、五感を通して感じ多角的に考えていくください。

おそらく今回のイベントの準備、運営に携わることで、学びへの問だけでなく、チームワークや運営の難しさなど社会的な側面も学ばれたことだと思います。失敗を恐れず、挑戦続けてくださいね。

# けいはんな科学コレクション-KKC- ～実行委員会のあゆみ【要約版】～

【日時: 2025.3.16. 12:00~17:00】 【開催場所: 国際高等研究所】

実行委員会は関西にある8大学から集まった24名のメンバーで構成されています。

「学ぶことの楽しさを発見し、未知を探究する喜び等を思い出してもらうこと」

「けいはんなの研究を知ってもらうこと」を目的に、中学生～大学生向けにイベントを開催しました。

0

事前活動

KKC開催までの約半年間、けいはんなR&Dフェアや研究者インタビュー等にも参加しながら、会議を重ねました。



1

SWITCH  
インタビュー

ATRの境先生と松室先生をお呼びして対談企画を実施しました。学生を中心、幅広い世代の方がお越しいただきました。



2

女性  
研究者対談

「好きを貫くには？」というテーマで、研究や人生設計について、鈴木先生と青木先生に対談していただきました。



3

AIにかたちは  
あるのか

国際高等研究所の鈴木先生のお力もお借りして、AIのかたちをLaQで表現するワークショップを行いました。



4

放射線  
ワークショップ

霧箱で放射線の飛跡を見たり、線量計を使って放射線の量を測ったりするワークショップを行いました。



みんなで  
ミャクミャクと  
写真を撮りました♪

研究者カフェにも  
ご参加いただきました

とても有意義な  
時間になりました

子どもたちに  
人気の企画でした

大人気のため  
急遽実施回数を  
増やすことに…！

## ▶実行委員会メンバーの感想

メンバーとともに企画を一から考え、話し合いながら形にしていくという貴重な経験ができ、R&Dフェア・KKCを成功させることができて本当によかったです。

ミーティングの様子→



## ▶作成したもの

広告チラシ、特典・記念品、POPカード、プログラム・マップ、各コンテンツに必要なものを作成しました。デザイン等も私たちで協力しながら行いました。

作成物の例(チラシ)→



## 「学生の学生による学生のための教養講座」事務局より

### 一すべてはナイストライ

メンバーの皆さん、実行委員会に参加いただき、ありがとうございました。半年間、お疲れさまでした。けいはんな科学コレクションを実現させたこと、また、その途中で悩んだこと、ともに貴重な経験だと思います。私はこの活動を通して、皆さんと出会い、時間を共有できたことをとても嬉しく思っています。

これから皆さんはそれぞれの道に進んでいきます。新しいことに取組むのは、うまくいかないことも含めて、すべてナイストライです。これからも、いろいろなことにチャレンジしてください。最後に、実行委員会活動は2025年度も続きます。こちらも、よろしくお願いします。

松井 利喜



公益財団法人  
**国際高等研究所**

International Institute for Advanced Studies

## 「学生の学生による学生のための教養講座」

### 実行委員会メンバーとは？

多様な交流や、ともに作り上げる経験などの大学では得られない経験を通じて自分自身を成長させたい  
学生たち

### イベント開催の目的とは？

科学や学びの楽しさを提供して多角的な視点や考える力を身につけてもらうこと

### お問い合わせ先

公益財団法人国際高等研究所 学生のための教養講座事務局 (担当: 松井)  
[matsui@iias.or.jp](mailto:matsui@iias.or.jp)



編集: 「学生の学生による学生のための教養講座」実行委員会